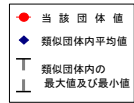


(3) 市町村財政比較分析表(普通会計決算)

人口	19,143	人(H24.3.31現在)
面積	425.75	km ²
歳入総額	10,108,488	千円
歳出総額	10,035,553	千円
実質収支	72,669	千円
標準財政規模	6,576,728	千円
地方債現在高	16,281,677	千円

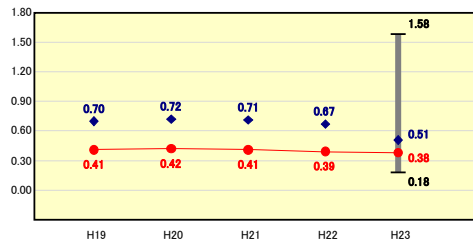


※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と云う。
 ※平成24年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。
 ※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。
 ※類似団体内平均値は、充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体を含めた加重平均であるため、最小値を下回ることがある。
 ※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

財政力

財政力指数 [0.38]

類似団体内順位 48/82 全国平均 0.51 北海道平均 0.28

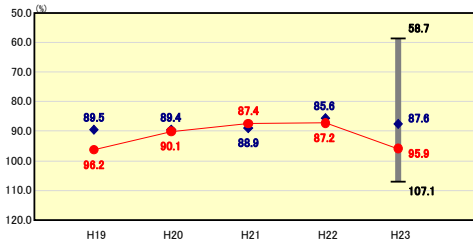


財政力指数の分析欄
 本町の財政力指数は、北海道内の町村としては、比較的上位に位置するものの、全国的な比較においては、類似団体平均を下回る状況となっている。近年では、長引く景気低迷に伴う地域経済の低迷や労働者人口及び所得の減少等を背景に市町村民税の減少傾向が顕著となるとともに、少子高齢社会の進展による社会保障費等の増大はじめてとする多様な行政需要への対応等、計画的な歳出の抑制が極めて困難な状況となっている。現状においては、不断の行財政改革と効率的な組織体制の構築により、早期に安定した行財政運営を行なうよう取組みを進めていくものである。

財政構造の弾力性

経常収支比率 [95.9%]

類似団体内順位 76/82 全国平均 90.3 北海道平均 88.9

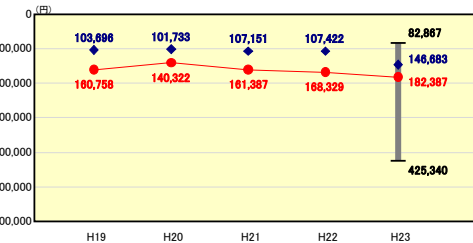


経常収支比率の分析欄
 平成22年度において、恒常的に繰出金を必要としていた2特別会計等を第3セクター等改革推進債を活用して廃止するなど安定した財政運営への対策を講じたところである。しかしながら、平成23年度においては、当該3セク債の償還開始をはじめ、過去からの港湾整備事業に対する公債費の増、消防署を単独設置していることなどによる人件費の高止まりなどを主たる原因として、平成22年度87.2%であった経常収支比率は、95.9%まで急激に上昇し、全国、北海道平均をも上回っている。今後は、早急に行政経費の削減等の対策を講じ、財政運営の弾力性確保に努めていく必要がある。

人件費・物件費等の状況

人口1人当たり人件費・物件費等決算額 [182,387円]

類似団体内順位 71/82 全国平均 119,477 北海道平均 139,929

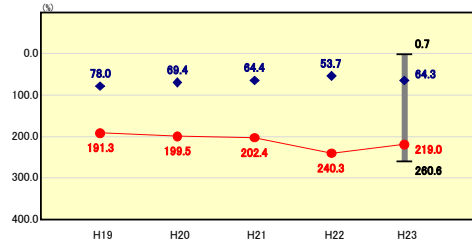


人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄
 本町では、昭和34年の製紙会社の進出以降、約20年間で人口が倍増したという社会情勢の急激な変化を背景として、昭和48年からの5年間で約100人に及ぶ職員採用が行われたこと、また、消防本部・消防署を単独設置していることなどを要因として、人口1人当たりの人件費等については、類似団体平均、北海道平均をも上回っている。特に、425.75km²という広大な行政区画と区域内を河川が縦断し、古くから7つの集落ごとの行政需要が生じていることなど地理的、歴史的要因が行政コストの軽減を阻み、また、地域ごとに産業構造も異なることなどを原因として、人件費・物件費等が類似団体平均を上回る結果となっている。

将来負担の状況

将来負担比率 [219.0%]

類似団体内順位 80/82 全国平均 69.2 北海道平均 87.2

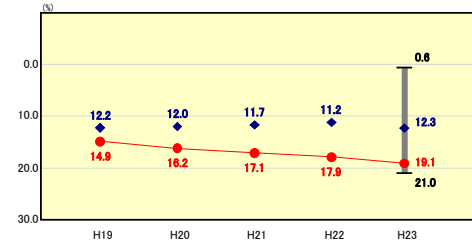


将来負担比率の分析欄
 将来負担比率については、地方港湾白老港の建設に伴う地方債と近年増加傾向にある公営企業債の元金償還充当繰出金の増加等を主たる要因であったが、平成22年度においては、特別会計の赤字解消・廃止を目的として新たに第3セクター等改革推進債を借入れたことから、比率が大幅に悪化した。しかしながら、平成23年度は、対前年比21.3%の改善が図られたように、今後においては、地方債発行額の抑制と計画的な償還によって、後世への負担を確実に軽減するよう責任ある行財政運営を進め、将来負担の軽減に

公債費負担の状況

実質公債費比率 [19.1%]

類似団体内順位 79/82 全国平均 8.9 北海道平均 11.7

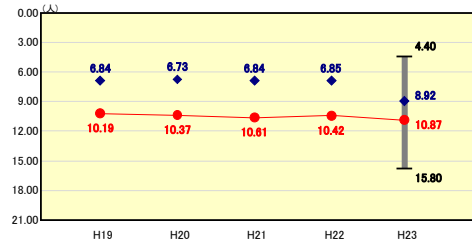


実質公債費比率の分析欄
 本町では、過去からの地方港湾白老港建設事業をはじめとする建設事業に伴う地方債の発行に係る償還金や公営企業等への繰出金から公営企業債の償還に充当される準元利償還金などにより、当該比率は、類似団体平均を上回っている。平成23年度からは、平成22年度に起債した第3セクター等改革推進債の償還が始まるなど、今後、数年間は、実質公債費比率が高水準で推移することが予想されるものであるが、地方債の発行抑制や一層の行財政改革の推進などにより、計画的な改善に努める必要がある。

定員管理の状況

人口千人当たり職員数 [10.87人]

類似団体内順位 67/82 全国平均 7.17 北海道平均 8.15

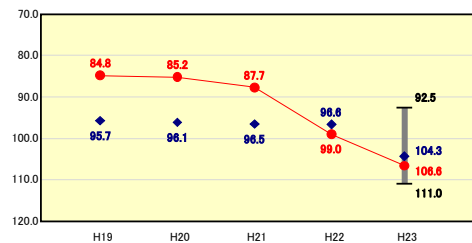


人口千人当たり職員数の分析欄
 企業進出等に伴う急激な人口及び行政需要の増大等への対応を背景として、昭和48年度からの5年間で約100名の職員採用を行ったこと、また、消防署を単独で設置していることが、類似団体平均を上回る最大の要因である。平成19年度には、行財政改革を目的として38名の勧奨退職者を含む52名の職員削減を断行するなど、継続的に適正な定員管理による行政運営を目指しているところであるが、今後とも、円滑な行政運営に必要な最低限の定員を見極め、退職者に対する補充のバランスに配慮しながら、定員管理に努めていくものである。

給与水準(国との比較)

ラスパイレス指数 [106.6]

類似団体内順位 65/82 全国市平均 106.9 全国町村平均 103.3



ラスパイレス指数の分析欄
 平成22年度において、職員給与の削減率を20%から7%へ緩和を図ったこと等により、ラスパイレス指数が上昇したものであるが、引き続き、各種手当等の見直しなどを実施し、数値の改善に努める。